

平成28年度病虫害発生予察予報第1号（4月）

平成28年4月4日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生面積（地域名）
抑制、促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多(中西、西)</u> 、やや少(中西) <u>やや多(中央、西)</u> 、やや少(中西) <u>やや多(中央)</u> 、やや少(中西、西) <u>やや多(県下全域)</u>
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多(東、中央)</u> 、やや少(西) <u>多(東、西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> <u>やや多(県下全域)</u> <u>やや多(中央)</u> 、 <u>平年並(東)</u> 、やや少(西) やや少(県下全域)
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ	<u>多(中央)</u> 、 <u>平年並(東)</u> 、やや少(中西) <u>多(県下全域)</u> やや少(県下全域) <u>多(中央)</u> 、 <u>平年並(東、中西)</u> <u>やや多(東)</u> 、 <u>平年並(中央)</u> 、 <u>少(中西)</u> <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(中西)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>平年並(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 3 月 31 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 4 月 2 日から 5 月 1 日

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は高い確率 70% です。降水量は多い確率 50% です。日照時間は少ない確率 50% です。

週別の気温は 1 週目は高い確率 80% です。2 週目は高い確率 60% です。3 ～ 4 週目は平年並または高い確率ともに 40% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	20	70	
		降水量	20		30	50
		日照時間	50			30 20

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	10	80	
2 週目		10	30		60
3 ～ 4 週目		20		40	40

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：4 月 2 日（土）～ 5 月 1 日（日）

1 週目：4 月 2 日（土）～ 4 月 8 日（金）

2 週目：4 月 9 日（土）～ 4 月 15 日（金）

3 ～ 4 週目：4 月 16 日（土）～ 4 月 29 日（金）

II 病虫害発生予想

1 抑制、促成キュウリの病虫害

1) ベと病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（やや少/平年並）、中西部（やや多/高）、西部（やや多/やや低）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部は少なめ、中西部、西部は平年並であった。発生程度は中央部はやや低め、中西部はやや高め、西部は低めであった。

(2) 4 月の降水量は多いと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（やや多/やや低）、中西部（やや少/やや低）、西部（やや多/平年並）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部、西部は平年並、中西部は少なめであった。発病程度は中央部、中西部は低め、西部はやや低めであった。
- (2) 発生が目立つ地域は見られていないが、4月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。また、パルミノはカブリダニ類に対する影響が強いので注意する。

3) 黄化えそ病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（やや多/やや高）、中西部（やや少/やや低）、西部（やや少/やや高）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部は平年並、中西部、西部は少なめであった。発生程度は中央部、西部は平年並、中西部は低めであった。
- (2) 気温の上昇に伴い、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が盛んになるため、既発ほ場では発病株数が急激に増加する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

4) ミナミキイロアザミウマ

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（やや多/高）、中西部（やや多/やや低）、西部（やや多/やや低）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県下全域で平年並であった。発生程度は中央部で高め、中西部、西部は低めであった。
- (2) 4月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場では密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。天敵導入ほ場のうち、スワルスキーカブリダニのみを導入しているほ場では、今後、ミナミキイロアザミウマを防除することは困難なので、薬剤防除を併用する（ベネビアODであればスワルスキーカブリダニ、タバコカスミカメへの影響はほとんどない）。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（多/高）、中央部（多/高）、西部（やや少/やや低）

根 拠

- (1) 巡回調査では東部、中央部で発生が見られた。発生面積は東部は平年の5倍程度、中央部は2.5倍程度であった。発生程度も平年に比べると高かったが、実害が見られるほ場はなかった。
- (2) 4月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（多/高）、中央部（やや多/高）、西部（多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部、西部は多、中央部は平年並であった。発病程度はいずれの地域も平年に比べると高かったが被害が見られるほ場はなかった。
- (2) 4月の気温は高め、降水量も多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) すすかび病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや多/やや高）、中央部（やや多/やや高）、西部（やや多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年並であった。発生程度は東部、中央部は平年並、西部は高めであった。
- (2) 4月の気温は高め、降水量も多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（平年並/やや低）、中央部（やや多/やや低）、西部（やや少/やや低）

根 拠

- (1) 巡回調査では東部、中央部で発生が見られた。発生面積は東部でやや少、中央部は平年並であった。発生程度は東部、中央部とも低かった。
- (2) 4月の気温は高めと予想されている。天敵の密度が低いほ場では、本虫の密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は上位葉を中心に

発生初期の防除を徹底する。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや少/やや低）、中央部（やや少/やや低）、西部（やや少/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域でも発生面積は平年より少なめ、発生程度も県東部、中央部では低めであったが、西部の一部では発生程度が高いほ場も見られた。
- (2) 4月の気温は高めと予想されている。天敵の密度が低いほ場では、本虫の密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（平年並/やや低）、中央部（多/高）、中西部（やや少/やや低）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部は平年並、中央部は多め、中西部はやや少なめであった。発生程度は東部、中西部は低かったが、中央部の一部では落葉が見れたほ場もあった。
- (2) 4月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（多/高）、中央部（多/高）、中西部（多/やや高）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県下全域で多く、発生程度も東部、中央部は高めであったが実害が見られるほ場はなかった。
- (2) 4月の気温は高め、降水量は多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや少/やや低）、中央部（やや少/やや低）、中西部（やや少/やや低）

根 拠

- (1) 巡回調査ではいずれの地域でも発生が見られなかった
- (2) 4月の気温は高め、降水量は多めと本病の発生に好適な条件になると予想されている。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（平年並/やや高）、中央部（多/高）、中西部（平年並/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部、中西部はやや少なめ、中央部はやや多めであった。発生程度は東部は平年並、中央部はやや高め、中西部は高めであった。
- (2) 4月の気温は高めと予想されている。既発ほ場では密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は、上位葉を中心に防除を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや多/やや高）、中央部（少/低）、中西部（少/低）

根 拠

- (1) 巡回調査では東部でのみ発生が見られ、発生面積、発生程度とも平年並であった。
- (2) 4月の気温は高めと予想されている。既発ほ場では密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) ヒラズハナアザミウマ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（多/やや低）、中央部（やや多/平年並）、中西部（やや少/やや低）

根 拠

- (1) 巡回調査では東部、中央部で発生が見られたが、いずれの地域も発生程度の高いほ場は見られなかった。
- (2) 4月の気温は高めと予想されている。既発ほ場では密度が急激に上昇する可能性があるため注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ多めの発生であった。発病程度も平年に比べ高めであったが、下葉中心の発生であり実害は見られなかった。
- (2) 4月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ多めの発生であった。発生程度は平年並、下葉中心の発生であり、実害は見られなかった。
- (2) 4月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) うどんこ病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ多めの発生であり、一部では中位葉まで発病が進展しているほ場も見られた。
- (2) 4月の気温は高めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) トマトに発生するうどんこ病は内部寄生性のもの（葉裏に発生する）と外部寄生性のもの（葉表に発生する）2種類がある。外部寄生性のものは病勢の進展も早く、被害も激しいので早期防除を徹底する。

4) 黄化葉巻病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（平年並/やや低）

根 拠

- (1) 巡回調査では一部のほ場でのみ発生が見られた。
- (2) 4月の気温は高めと予想されている。本病の媒介虫であるタバココナジラミの発生が見られるほ場では、害虫密度の増加に併せ、罹病株も増加する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（多/平年並）

根 拠

- (1) 発生面積は平年に比べ多めであったが、発生が見られたほ場は一部に限られており、発生程度もやや低めであった。
- (2) 気温の上昇に伴い、既発ほ場では密度が急激に増加する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.

こうち農業ネットサービス※

- ・ 携帯電話を使った病害虫関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（iモード）

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：（ヤフー）

- ① 病害虫発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります